

令和7年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立輪島高等学校 定時制課程

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果、課題、改善策等） |
|----------------------------|-----------------------|---|---------------------------|--|
| 1 学ぶことによるこびの実感 | ① 一人一台端末を活用した授業の工夫・改善 | 一人一台端末の活用の工夫により意欲的に学習に取り組めたと感じた生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | A (100%) (昨年度 100%) | 成果：検索エンジンや生成AIで得られた情報を、自分の学習に効果的に取り入れている。また、意見や情報をクラスルーム上で共有し、リアルタイムで可視化することで、議論が深まりやすくなっている。 課題：検索エンジンや生成AIは大変便利だが、それらが提示してくる情報の全てが正確であるとは限らない。特に生成AIの進化は目覚ましいが、こちらが聞いたことに対しては、まだまだ不正確な回答も多い。 改善策：調べた情報がどの程度信頼できるのかを、異なる方法・観点・資料などを使って複数回チェックすることを意識するよう促す。 |
| | ② 授業内容の工夫を図る校内外の研修の充実 | 授業に主体的に取り組んだ生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | A (100%) (昨年度 100%) | 成果：昨年度同様、すべての生徒が授業に主体的に取り組んでいると感じている。 課題：主体的な学びの継続には、学校で学ぶ知識・技能に対する納得感（なぜこれを学ぶのか）が必要である。 改善策：今後も各教科の学びにおける意味づけ（実社会とどのようにつながってくるか）を意識しながら、日々の授業づくりや校内の研修に取り組んでいく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | <ul style="list-style-type: none"> 生成AIの活用について、学校が指導しているのか。 →生徒が自発的に触れている。作文などで使っている様子が見られたときに活用の仕方について指導している。 | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | | <ul style="list-style-type: none"> 今後も校内研修及び校外研修などで各教員の力量向上を目指し、授業改善に活用する。 | | |

| 重点目標 | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果、課題、改善策等） |
|----------------------------|--|--|-----------------------------|--|
| 2 社会人基礎力の向上 | ① 日常的な挨拶・言葉遣い指導 | 来校者や職員に対し自ら進んで挨拶をしていると答えた生徒が A：90%以上 B：80%以上 C：70%以上 D：70%未満 | B (85.7%) (昨年度 85.0%) | 成 果：普段からの声掛けや学校行事における指導により、生徒の挨拶が身に付いてきている。気持ちの良い挨拶ができるようになってきている。 課 題：自ら声を発すること自体を苦手とする生徒が依然として見られる。 改善策：学校行事の際、又は登下校時や授業時などあらゆる機会をとらえて教職員自ら積極的に挨拶し、挨拶の大切さを伝える。 |
| | ② 自己管理意識を高める粘り強い指導 | 全授業の出席率70%以上の生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | B (71.4%) (昨年度 75.0%) | 成 果：生徒の様子は落ち着いており、真面目に授業や行事に取り組んでいるが、特定の生徒に欠席が目立つ。 課 題：年度の後半に欠席が増えてきている。 改善策：生徒に対する個別の指導を特に後期に充実させる必要がある。 |
| | ③ 自他を認め、チームで活動する機会の充実や人権教育及び道德教育の充実化 | いじめを見逃さない体制づくりが構築出来ていると回答した教員が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | A (100%) (昨年度 100%) | 成 果：校内で年2回いじめアンケートを実施している。また、生徒数が少ないため、生徒同士の関わりは可視化されやすい状況にある。 課 題：少人数でも生徒間のトラブルやいじめがないとも限らない。細かな事にも気づけるよう、注意を払っていく。 改善策：生徒の人間関係や生活面、学習面などを把握するために、個人面談の充実化を図る。また、外部機関との連携を念頭に入れて、体制づくりを進めていく。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | <ul style="list-style-type: none"> ・挨拶については、大人からの働きかけが大切である。今後も継続して取り組んでほしい。 ・個人面談の場は今後も設けてほしい。話したい人に話せる環境づくりも継続して推進してほしい。 ・生徒一人ひとりに積極的にあたたかい言葉をかけてほしい。保護者のつながりづくりにも取り組んでほしい。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的指導だけでなく対外的な学校行事の体験学習等を通して、挨拶指導を実践する。 ・個人面談週間等を設置して、組織的に面談を行う。 ・保護者を交えた学校行事の推進を積極的に図っていく。 | | | |

| 重点目標 | | 具体的取組 | 実現状況の達成度判断基準 | 集計結果 | 分析（成果、課題、改善策等） |
|----------------------------|--------|--------------------------------------|---|-----------------------------|--|
| 3 | 地域愛の育成 | ① 復旧復興活動に係る行事の精選とニーズの把握 | 体験学習において生徒の参加した割合 A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | A (92.5%) (昨年度 88.0%) | 成果：体験学習（千枚田田植え・稲刈り、調理実習）の参加率は高く、特に調理実習はこれまで5回1名の生徒も欠席していない。 課題：生徒の参加意欲に個人差があり、ただ参加しているだけの生徒が若干名見られる。 改善策：調理実習のメニュー決めや買い出しなどを生徒自身に行わせ、意欲的な参加を促すとともに、活動の事後アンケートでの生徒の意見を活動内容に反映させていく。 |
| | | ② 協働的に活動する場面設定の充実 | 体験学習において協働的に取り組むことができたと感じた生徒が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | A (100%) (昨年度 75.0%) | 成果：体験学習に際し、多くの生徒が他の生徒と協力し、真面目に取り組んでいた。 課題：他の生徒とコミュニケーションを図りながら活動することが苦手な生徒が若干名見られる。 改善策：調理実習で作業分担のルールを設けるなど誰もが周囲と協力して自分の役割を果たす機会を設け、特定の生徒に負担が集中しないように活動の計画を工夫する。 |
| 4 | 多忙化改善 | ① 業務の見直し・平準化による多忙感の解消 | 時間外勤務について月平均で20時間を超えない教員が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 | A (100%) (昨年度－%) | 成果：中間調査では月平均20時間超過者が2名いたが、最終調査では0名になった。 課題：後期の定時制通信制の北信越大会や冬季大会における生徒引率では、時間外勤務が長くなる傾向がある。 改善策：引率者においては、同職員に偏ることのないよう引き続き努めていきたい。 |
| 学校関係者評価委員会の評価 | | ・生徒の参加率がこれまで以上に高まっているので、今後も続けてほしい。 | | | |
| 学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策 | | ・生徒の主体性を育みながら、学校行事の精選並びに活性化を図っていきたい。 | | | |